

# よし た

2014年(一社)津山青年会議所スローガン

# 夢は叶う共に歩もう

～揺さぶれ!つやま魂 懐かしい未来へ向かって～



- 理事長挨拶「一年を終えて」
- 2014年度 新会員 一年を終えて

- 理事・役員挨拶
- 卒業生挨拶

# 一年を終えて



第57代 理事長  
須江 健治

2014年度、津山青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現を理想とし「夢は叶う 共に歩もう～揺さぶれつやま魂！懐かしい未来へ向かって～」をスローガンに掲げ、メンバー丸となって全力で運動・活動を展開してまいりました。

本年度は宮古JCと姉妹JC縁組締結50周年を迎えた大きな節目の年でした。昨年の津山城模擬天守復元を受け、宮古JCとの記念式典や記念事業、まちづくり事業を、津山城で行い津山城を中心としたまちづくりをさらに推し進めた年でありました。

昨年7月に理事長予定者として承認をいただいてから今日まで、メンバーや先輩、会社や家族、地域の方々をはじめ多くの方々に支えられ理事長の職務を全うすることが出来ました。本当に大変な一年でしたが、様々な方と出会いメンバーに支えられながら貴重な経験をさせていただいた充実した一年でもありました。

振り返ってみますと元日には徳守神社で「迎春の会」を行い、メンバーの年初の意気込みと想いを一つにし、一年間無事に事業が成功することを祈念しスタートを切りました。

また、「新年懇親会」を多くのご来賓や特別会員の皆様にご臨席いただく中で開催し、本年度の方向性と新体制を披露させていただきました。また7名の新会員が加わり、新会員研修を通じてJCについて学び、新会員同士の絆を深めてまいりました。

4月14日は、会員数の減少に苦しんでいる現状を打破したいという一心で「拡大王と呼ばれる酒田JCの鈴木先輩」をお招きし、県北4JC合同例会でご講演いただきました。結果は5名で終わりましたが、会員拡大を年初から全メンバーで行い、事業にも随所に盛り込み、会員拡大を運動とすることが出来ました。

また、野球部に於いては、「岡山ブロック野球大会二連覇」をめざし練習に励みましたが、残念ながら二回戦で倉敷JCに惜敗してしまいました。しかし、LOMの一体感と勢いがさらに増し今後の事業の弾みとなりました。

全城連に理事を輩出し、全城シン熊本大会に多くのメンバーで駆けつけ、その大会規模に興奮し、将来もう一度津山城で全城シンを開催しよう！と構想を練り、夢を語り合いました。

7月には大和魂育成プログラムを江田島でおこない日本人の美德や利他の精神を学び、先人の愛国心のもとに我々

は生かされているということに気づかされました。

つやま魂和っしょいプロジェクトでは津山納涼ごんごまつりや津山祭りに参画すると共に、「和っしょい！津山」の普及活動を行いました。ごんごまつり2日目に商店街で和っしょい津山！2014を開催し、21連もの津山圏域の踊り連が商店街を様々な踊りでパレードし、最後に全員で総踊り「和っしょい！津山」を踊り一体感を味わいました。

8月22～24日には青少年育成事業として「つながろうサマーキャンプ～思いやり・助け合い・感謝で育むつやま魂～」を開催し鳥取の船上山を舞台に子どもたちとキャンプを行いました。子どもたちの道徳心を育むと共に将来つやまを好きになり、暮らしてもらえそうな仕掛けを盛り込み事業を開催いたしました。

9月6、7、8日の3日間、鶴山を考える会に心温まるご理解とご協力をいただき～津山城が奏でる3日間～として津山城で事業を開催することが出来ました。6日はまちづくり事業として「夢灯り～いいね！みんなのまち～」を開催いたしました。横野和紙に描かれた子どもたちの郷土愛で津山城三の丸を幻想的に灯しました。7日は宮古JCから20名を超える特別会員と現役会員に来津いただき50周年記念式典を津山城本丸で盛大に執り行いました。また同会場にて「音城2014」を多くのご協賛をいただく中で盛大に開催し、両市の音楽などで交流を深め、本土復帰前からの長きにわたる友好関係を多くの市民に知っていただける機会となりました。8日の観月と邦楽の夕べにも宮古島の音楽が響き渡り、仲秋の名月の下、来場者全員が立ち上がりクイチャーを踊る一幕もあり大いに盛り上がりました。

9月21日には「作ってみよう！丸太のベンチ」を開催し、2020年の森の木を伐りだし児童と保護者が協力して大きな丸太のベンチを作りました。自然の中で木に触れ、親子の時間を過ごしたことで「充実した時間を過ごした」と言われる参加者が多くおられました。先輩の汗と想いの詰まった2020年の森の木をベンチに仕上げ津山圏域の児童館へ寄贈いたしました。

9月23日の「地域のつながり再生フォーラム～つやまなかま会議～」ではつやまNPO支援センターの鈴木理事長に同センター設立のきっかけをご講演いただき、城西地区、倭文地区、新田地区、高倉地区に地域・つながり再生に向けての様々な取り組みを発表していただきました。つやまには活力のある「ひと」が沢山おられ、その「ひと」と「ひと」を大きくつなげると共に、元気と勇気をいただきました。この事業は今後の津山JCの役割と可能性を感じさせる事業となりました。

本年度は会員拡大を意識して多くの事業を開催いたしました。そのすべては津山青年会議所の歴史・伝統があり、先輩諸兄や他団体の方々のご協力やご指導があったからこそ成し得た事業であったことに改めて御礼申し上げます。

次年度は5名の新会員を迎え、今年度、メンバーが丸となり20年後の活力あるつやまを夢見て、日本人の精神性を大切にしながら津山城を中心としたまちづくりに打ち込んだ情熱を次年度、河原淳君率いる新体制にしっかりと引き継ぎながら、全員の力と心を合わせ、志高く全力で邁進して参りますので、皆さま方におかれましては津山青年会議所に対しまして、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。



## 理事・役員挨拶



直前理事長  
光岡 宏文

本年度、須江理事長のもと、LOMにおいては直前理事長として、また、岡山ブロック協議会においては副会長の役をいただき、充実した一年を務めさせていただきました。さらにLOMにおいては宮古島市友好プロジェクト担当として、脇キャプテンを中心に開催された「音城2014」を支えさせていただきましたが、準備の段階から当日まで先輩方には大変お話しになり、またメンバーの大きな協力があり無事に終えることができました。宮古JCとの絆を通じて、先輩方が築かれた歴史・伝統を改めて感じることができました。

岡山ブロック協議会では副会長として、活気に満ち溢れた地域創造委員会を担当させていただくなかで、様々な問題を共に乗り越え、多くの仲間との絆を築くことができ、自分自身が視野を広げさせていただき成長させていただくことができました。次年度はいよいよ最終年となりますので、本年まで得たことをしっかりと若手メンバーへ伝えていきたいと思っております。一年間本当にありがとうございました。



副理事長  
土居 大介

2014年度は、ひとつくり室担当副理事長、津山JC野球部監督として、また公益社団法人日本青年会議所規則審査会委員として一年間を過ごさせていただきました。副理事長の抱いは勿論のこと、野球部監督として野球を通してLOMに一体感と勢いを付けるべく野球部の活動に取り組みしました。残念ながら岡山ブロックV2を勝ち取ることはできませんでしたが、LOMに対して結果以上の物が手に入れることができたと感じました。出向においては、委員会、公益・コンプライアンス審査会、NOMの事業等に積極的に参加し公益法人制度やコンプライアンス等、再度勉強させていただき多くの気づきを得ることができました。出向で得た経験をしっかりとLOMに持ち帰り今後の運動・活動の一助として考えております。次年度においては、出向に於いて公益社団法人日本青年会議所中国地区岡山ブロック協議会副会長として大役をいただいております。今までの経験を活かしLOM並びに岡山ブロックと全力で駆け抜けてまいります。皆様一年間ありがとうございました。



副理事長  
土井 康徳

本年は、まちづくり室担当副理事長兼津山城天守再建推進会議議長として一年間邁進してまいりました。まず、担当副理事長として力不足ではございましたが、担当常任理事の勤勉さと、つやま活性化委員会・つやま魂育成委員会の委員長及び委員会メンバーの熱意によりまして、無事に事業を実施推進することができましたことをうれしく思います。また、津山城天守再建推進会議議長といたしましては、昨年の津山城模擬天守復元事業等により地域の意識が更に「津山城」へと注がれている今こそ、「津山城天守再建」を目指し議論を重ねることが重要であると考え、今後、津山城天守再建及び津山城周辺市街地の活性化を実現していくに当たり、津山青年会議所としてのどのようなビジョンを持って進んで行くのかということについて、津山城の活用方法及び津山城周辺市街地の未来像についてメンバーの意見をいただく場として拡大会議を開催いたしました。拡大会議での貴重なご意見は、次年度に引き継ぎを行い今後の「つやま」の未来像を念頭に置きながら「津山城天守再建」に向けて推進していただきたいと思っております。最後になりましたが、至らない点多々あったかと思いますが、任命いただきました須江理事長を始めといたしまして、あらゆる面でお支えいただきましたメンバーの皆様、本年一年間お世話になりまして、誠に有難うございました。



副理事長  
河原 淳

本年、地域交流室の担当副理事長として、また、中国地区協議会へ役員として出向させていただく機会を与えていただきました。地域交流室としては昨年に引き続き『和っしょい津山』の普及・啓発活動と初の総踊りを軸としたパレードを商店街において展開し、2020年の森では管理・育成作業に続き、森の木を用いてベンチを製作し、津山園地の児童館へ設置する、まちへ向けた事業として初の試みを実施いたしました。いずれにしてもこれからの地域交流という視点で、よりまちへ愛着と誇りを持っていただく、地域資源の有効な活用を模索するといった事業展開を行い、今後の津山青年会議所の活動・運動の基盤づくりへの一翼を担えたものとなりました。

中国地区協議会への出向は、主権国家確立委員会の委員長として、この国の主権者は国民であり、一人ひとりが意識を持ち、様々な問題や課題へ関心や認識を高めていかなければならないという想いのもと、独立総合研究所の青山繁晴氏を講師としてお招きし「竹島はなぜ侵されたか、なぜ返ってこないか」というテーマで、日本が置かれているアジア圏における国際的な立場といった観点での高論を賜ることができました。さらに、資源をもたない日本にとってこれからのエネルギー問題についてと言うテーマで、地域に眠る資源の活用や課題、問題点について括目する意識醸成を図るため、中部大学客員教授の福田良輔氏と中国電力島根支社広報担当の小川広明氏をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。委員会のメンバー数が少ないこともあり、当日に向けてLOM内の人員を多くお借りすることとなり、当日はバタバタとした設営ではありましたが、目的としていた意識の醸成につながる事業展開となり、青年会議所内外より高い評価をいただく講演会とパネルディスカッションとなりました。今回の出向で得られた経験をもとに、またLOMへ反映をしながら、今後も活動・運動に邁進して行く所存でございますので、引き続きよろしく願っています。



総務拡大委員会  
委員長  
長谷川 毅

本年度、「夢は叶う共に歩もう」のスローガンのもと、総務拡大委員長という大役をいただきました。会員拡大としてメンバー全員で取り組み入会対象者のリストアップの充実を図り、また特別会員の皆様のお力もお借りしながらの会員拡大をさせていただく中で改めてLOMを見つめ直す機会になりました。我々がやっている運動活動の内容や想いを知らせていただく事、そして何より現在の青年会議所の勢いを知っていただく為に交流会や実施事業のお手伝いをしていただきました。入会に直接結び付かなかった点もありますが、広く青年会議所の運動活動を知っていただく機会になりました。また本年度はビジョン推進会議議長の大役もいただき、議長として理事長が目指す2014年の津山青年会議所の運動活動を具現化すべくメンバーの英知と勇気と情熱を集め、共に考え、共に感動を共有する事業展開をし中期ビジョン「活力あるつやまのあしたのために」に沿った事業展開を行ってまいりました。最後になりましたが、本年度も大変貴重な経験をさせていただいた事に感謝致します。「ありがとう」ございました。



専務理事  
鳥越俊之

本年度、須江理事長にご指名いただき、専務理事という立場で須江理事長と共に素晴らしい経験をさせていただき、多くの気づきや学びがあった実りある一年であったと思います。しかしながら、私自身の経験不足など多くの至らぬ点でメンバーの皆様方にはご迷惑をおかけする場面も多かったと思います。そんな中でも時には温かく、時には厳しくご指導・ご協力をいただきましたメンバーの方々も多く、津山JCの絆を改めて感じる事の出来た一年でもありました。私を専務理事にご指名いただいた須江理事長に心から感謝すると共に、お支えいただきましたメンバーの方々にも心から感謝いたします。一年間本当にありがとうございました。



宮古島市友好プロジェクト  
担当常任理事  
脇 優太

先輩方が半世紀にわたって大切に積み重ねてきた（一社）宮古青年会議所との友好50周年記念プロジェクトのキャプテンを理事長からご指名いただけたこと、また、宮古島の海のような晴天のもと無事に事業が終えられたのも、関係各位の多大なるご理解、ご協力、ご支援の賜物だとまずは心より御礼申し上げます。初の試みである津山のシンボルである津山城本丸跡地を舞台にしたい一心で、スタートしました。未知なる道を切り開くことは困難であることも忘れ、津山市をはじめとする関係団体と非常に多くの協議よりすべての事業が実現できたことや、250社以上の協賛をこころよくいただけた裏には、今までの（一社）津山青年会議所の実績や（一社）宮古青年会議所の協力はもとより、プロジェクトメンバーが全身全霊で想いを打ち出せたからだと確信しております。宮古島を感じさせるような気温の中、老若男女の方々が津山城本丸跡地まで来城していただいた光景を思い出すと感動してやまないです。LOMメンバーと共に歩んだおかげで夢は叶いました。本当にありがとうございました。



ひとつづくり室  
担当常任理事  
北村暢宏

本年度はひとつづくり室担当常任理事室長という役職を仰せつかり、須江理事長の『夢は叶う共に歩もう〜揺さぶれ！つやま魂懐かしい未来に向かって』のスローガンのもと、会員広報委員会・指導力入魂委員会の両委員会とともに（一社）津山青年会議所メンバーの資質を更に向上させ、一人ひとりが自己の可能性を信じ、積極果敢に行動できるよう活動を展開してまいりました。また、出向させていただいた津山市市民憲章推進協議会では事務局長という大役を任せていただき、自身の成長にも繋げる事ができました。結びになりますが、常任理事室長という役職を与えていただいた須江理事長に感謝を申し上げますとともにお世話になった全ての皆様へ御礼申し上げます。一年間ありがとうございました。



まちづくり室  
担当常任理事  
菅田拓平

本年度は全国城下町青年会議所連絡協議会に理事として出向させていただき、5月16日（金）～18日（日）熊本の地で開催された全国城下町シンポジウムに、特別会員の方を含め多くのメンバーで参加してまいりました。これは昨年度実施された「美作国建国1300年記念事業 津山城天守復元〜今こそ和っしょい！津山城〜」により醸成された津山城天守再建への機運をさらに（一社）津山青年会議所内で高めることに繋がりました。今後も日本全国にある城下町を調査研究し、津山城天守再建へ向け取り組んでいきます。

そして、まちづくり室として須江委員長、植月委員長と歩んできた一年間ですが、両委員長には私自身が不勉強ですぐに対応できないこともあり、そこから私自身も共に学ぶことができました。また、担当副理事長として土井副理事長には大変お世話になりました。これまで学んできたこと、多くの方への感謝を忘れず次年度以降に生かしてまいります。



地域交流室  
担当常任理事  
有本紳介

本年度、地域交流室室長として、つやま魂和っしょいプロジェクトと2020年の森活用推進プロジェクトを担当させていただきました。両プロジェクトキャプテンをはじめ、メンバーの志が非常に高く、一年を通じて大好きなまち『つやま』に津山青年会議所の目指す方向性を示すことができたのではないかと思います。つやま魂和っしょいプロジェクトでは一年を通じて「和っしょい！津山」の普及運動を行いました。また8月3日に開催された「第1回和っしょい！津山」では20団体413名の踊り子の方々に参加いただき盛大に事業を開催することができました。市民参加型のまつりとして新たな一歩が進みはじめたと思います。また2020年の森活用推進プロジェクトでは管理・育成事業に加え、先輩方々から大切に受け継いできた2020年の森の木を活用し、「作ってみよう！丸太のベンチ」を開催させていただきました。津山圏域から参加者を募り、木の可能性と素晴らしさを感じていただきました。作成したベンチは津山圏域の児童館に寄贈させていただき、木のぬくもりを感じていただけるのではないかと思います。本当に皆さまにはお世話になり、感謝しております。ありがとうございました。



財務担当室  
担当常任理事  
福田邦夫

本年度、財務担当室では渉外交流委員会と事務局担当として、（一社）津山青年会議所の要となるべく責任の大きな役職をいただきました。1年を通じて、実施された様々な会議に上程される議案にいち早く触れ、その都度、メンバーの意気込みや想い、成長に触れることができたことは大変刺激になりました。また、担当の渉外交流委員会は京都会議をはじめとする渉外活動のみならず、地域のつながりの大切さを考える機会となった「地域のつながり再生フォーラムつやまなまかま会議」を実施し、多くの気づきを得るきっかけを与えてくれました。LOM内外での役割の兼務も多い渉外交流委員会メンバーは、岸本委員長をはじめ大変忙しかったと思います。本当にお疲れ様でした。この経験を次年度の運動・活動につなげていってほしいと願っています。また、最後にあらゆる面でお支えいただきましたメンバーの皆様全員に、一年間の感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



つやま魂和っしょいプロジェクト  
キャプテン

橋本安弘

2014年度つやま魂和っしょいプロジェクトでは、「第36回津山納涼ごんごまつりIN吉井川」において「第1回和っしょい!津山2014」を開催いたしました。「第1回和っしょい!津山2014」に参加された踊り連の皆様や、ボランティアスタッフの皆様一人ひとりが、この「和っしょい!津山」の主演として踊りを楽しんでもらうこと、そしてそれを継承していくことが重要だと思います。今後も「第1回和っしょい!津山2014」が継続して開催され、20年後の活力ある「つやま」に繋がる津山のまつりになることを心から願っています。この事業を開催するにあたりご協力いただきました踊り連の皆様、ボランティアスタッフの皆様、須江理事長をはじめとする(一社)津山青年会議所メンバーの皆様、そして、つやま魂和っしょいプロジェクトのメンバーの皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2020年の森  
活用推進プロジェクト  
キャプテン

山形三平

本年度2020年の森活用推進プロジェクトは、プロジェクトの名に「活用」という言葉が入りこの一年間は「活用」をキーワードに事業を考えて参りました。まずは多くの先輩方が育ててきた2020年の森の管理・育成事業を4月5日(土)に開催いたしました。今年は雨が多く、この時も事業開催日が雨天延期となり予備日の開催となりました。しかし、多くのメンバーに参加いただき事業を無事終えることが出来ました。事業では、作業道の拡幅延長を行い、管理小屋、橋の修復などを行いました。また、間伐材を利用して今後、活用できるように薪割りをおこない管理小屋へ保管いたしました。そして今年はまだ一つ公益目的事業の「作ってみよう!丸太のベンチ」を9月21日(日)に開催いたしました。2020年の森の木を使って一般の方とメンバーが協力し丸太のベンチを作製しました。大人も子どもも夢中になって作製し思い出に残る事業になったと思います。作製したベンチは津山圏域の児童館7箇所へ寄贈し活用しています。この1年間は本当に大変な1年でしたが多くのメンバーの支えや外部の方の協力でなんとか1年やり遂げることが出来ました。最後になりますが、須江理事長には、本年度2020年の森活用推進プロジェクトキャプテンに指名していただき感謝しております。ありがとうございました。

会員広報委員会  
委員長

中川洋平

会員広報委員会では、「垂範・考勅」をテーマに常に先頭に立ち、模範となれる人間力あるひとになっていただくべく活動してまいりました。対内的な事業がほとんどでしたが、迎春の会に始まり、新年懇親会、納涼会、望年会と多くの事業を無事開催することができました。また、津山青年会議所の運動・活動をホームページの利用で津山圏域の多くの方々に発信することができました。ブロック出向においても副議長という大役もいただき、委員長として今年一年とても貴重な経験をさせていただいた中、ご指導、ご鞭撻をいただきました須江理事長をはじめとする理事・役員・メンバーの皆さま、そして最後になりますが、何より一番近くで支えてくださった委員会メンバーの皆さん一年間本当にありがとうございました。

指導力入魂委員会  
委員長

山本竜義

本年度、指導力入魂委員会は「大和魂」をテーマに運動・活動を行ってまいりました。まず新会員研修会(導入編)として、昨年の12月12日理事役員予定者と新会員予定者の顔合わせ会から事業がスタートし、1月20日から新会員研修会(研修編)を行いました。5月の例会企画では川嶋健文先輩にご講演いただき、会員としてだけでなく、経営者としてあるべきリーダー像をお話しいただき、会員のリーダーシップの開発を行いました。そして、7月12~13日には、1泊2日の会員研修事業「大和魂」育成プログラムを開催しました。この事業を通じて利他の精神や「生き抜き力」を養い、「大和魂」を育成したことで会員が団結し、この後の事業に勢いをつけることができました。このように1年間さまざまな研修事業を行ってまいりました。ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。会員の皆様には、指導力入魂委員会が行ってきた事業で得たことを発揮され、益々ご活躍されますことを祈念いたします。一年間ありがとうございました。

つやま活性化委員会  
委員長

須江庸司

つやま活性化委員会では、津山圏域の学童保育所に訪問して、地域の魅力に気づいていただく「いいね!みんなのまち~活力ある20年後へ~」を開催させていただきました。横野和紙を活用し1,000人を超す児童に描いていただいた「自分のまちの好きなおとこ」は地域のたからから身近なソーシャルストックまで幅広く、さまざまな地域の魅力に気づいていただけました。そして「津山城が奏でる3日間」の初日に開催させていただいた「夢灯り~いいね!みんなのまち~」では、普段とは異なる津山城の魅力を引き出し、「自分のまちの好きなおとこ」を輝かすことで、来場者に多くのつやまの「いいね!」に気づいていただき、つやまに愛着と誇りを感じていただけました。事業の計画、実施に携わっていただいた皆様、LOMメンバーの皆様、委員会メンバーの皆様など多くの方に支えられ、お力添えをいただいたことで一年間を全うできたことに心より感謝申し上げます。



つやま魂育成委員会  
委員長  
**植月達也**

つやま魂育成委員会では鳥取県船上山にて、小学校4・5・6年生を対象とした宿泊型体験事業「つながろう！サマーキャンプ～思いやり、助け合い、感謝で育むつやま魂～」を開催いたしました。未来を担う子どもたちがひとつのふれあいのなかから、他人に対して思いやりを持ち、互いに助け合い、感謝を声に出して伝えることで、自律心と利他の心を育むことを目的に事業を行いました。事業計画の段階から紆余曲折を経てしまい、委員長としての認識の甘さと未熟さを痛感いたしました。しかし、そのようなときの的確な助言と温かい激励のお言葉、献身的なサポートをしてくださった（一社）津山青年会議所のメンバーの皆様には感謝の気持ちを言い表すことができないほど感謝しております。今回の事業を通じて学んだことや助けていただく度に感じた（一社）津山青年会議所の絆を次年度へつなげていきたいと思っております。1年間、誠にありがとうございました。



渉外交流委員会  
委員長  
**岸本陽平**

本年度、当委員会ではメンバーの見識を広めるべく渉外事業の意義を伝え、行程を先導して参りました。参加の過程では、L O M内外のメンバーとの大切な交流もあり、いかに懇親を深められるかを念頭に活動してきました。事業が終われば皆が「ありがとう、お疲れ様」と声をかけてくださり、本当にやりがいのある委員会でした。また、人とひとの交流から生まれる「つながり」の大切さを、つやまの皆様にお伝えするため「地域のつながり再生フォーラム～つやまなかま会議」を企画・立案してきました。実施に至るまでにJ Cだけではなく、つやまのために活動されている多くの方と出会い、お力添えを賜りました。この一年を通じて様々な場面でJ C内外の多くの方々と出会い、皆様に支えられてやり抜く事が出来ました。次年度は人間力開発室の副室長という大役をいただきましたがこの経験を糧に、しっかりと室のメンバーをサポートしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



出向理事  
**鈴木大介**

本年度、公益社団法人国家グループ真の経済復興創造委員会へ総括幹事と出向させていただきました。委員会運動として、J Cメンバー専用ビジネスネットワーク「CATAL」の立ち上げ、ロシア並びにアジア各国との経済交流事業の実施として、日本・ロシア経済交流事業では全国のJ Cメンバーと共に訪ロシア現地でのビジネス交流をいたしました。また、A S P A C山形大会ではビジネス交流ブースを設置し、国内外のJ Cメンバー向けビジネス相談を行いました。初めての経済系委員会ということで、手探りの部分が多くありましたが、とても実りある充実した1年を送ることが出来ました。スタッフとして出向させていただき、改めて感謝を申し上げます。



監事  
**村上雅人**

本年は監事として、また新たな1年を過ごさせていただきました。1年間携わりをいただきました皆さまに対し、まずは感謝申し上げます。

役割柄少し外から組織やその運動を客観視することができ、故にまた違った視点で新たに感じることもございました。

そして、本年は須江理事長の人間味あるリーダーシップのもとこの地域を元気にする多くの事業を市民、行政、各団体と共に開催致しました。メンバー自身にとっても、年間を通じて様々な事業を経験することにより、一人ひとりの力は微力ではあるが決して無力ではないことを証明し、そして、地域を愛する気持ちが終結した時に大きな成果が生まれることを実証することができたことは、改めて敬意と感謝の意を表すところであります。

社会は目まぐるしく進んでいても、私たちは青年会議所として活動しているからこそ感じるものが沢山あり、だからこそ、それらの諸問題に多く関わっていかなければなりません。

当然大変な時代だからこそ、私たちにとても容易なことではありませんが、Jaycee である以上、果敢に挑んでいかななくてはなりません。私たちには時代を創る責任があります。まずは自分から出来ることを今後も精一杯取り組み、組織として方向性を一致集結すれば必ず今の時代に大きな一石を投じることが出来るものと思っています。

来年は新たな1年が始まります。これまで経験をさせていただきましたことを無駄にしないよう更に精進し、地域においてまた新たな役を担っていききたいと思います。

最後になりましたが、J C運動を通じていただいたすべての皆様との出会いに厚く感謝申し上げ、監事としてのご挨拶といたします。誠にありがとうございました。



監事  
**仲西祐一**

今年一年間、メンバーの皆様には本当にお世話になりました。個人的には最終年度ということで特別な一年を過ごさせていただきました。この一年間を通して感じるのは、メンバー間のコミュニケーションが以前より不足しているように感じてなりません。経験年数の少ないメンバーが全体の割合として増加傾向にある中、しっかりと支援体制をL O M内で持ち若年メンバーの底上げを図っていくことが今後の津山青年会議所にとって必要なことだと考えます。

私は今年で卒業となりますが、この組織に出会い、沢山の尊敬する先輩、想いを語り合える友人、今後が期待できる後輩に出会わせていただきました。この青年会議所との出会いで私の人生は間違いなく変わったと思っておりますしこれからも素晴らしい出会いが待っていると思っています。

来年度以降も在籍するメンバーにはこの組織でしっかり学び、これからの人生の糧になるようしっかりと切磋琢磨してください。

最後に津山青年会議所に入会して出逢った方々全てに感謝しています。六年間お世話になりました。



2014年度  
新会員

## 一年を終えて

つやま活性化委員会  
秋田 義徳

入会してから、仕事との両立で本当に忙しい毎日を過ごし、1年があっという間に過ぎていきました。入会当初は山本委員長を始めとする指導力入魂委員会の皆様にはご指導を頂き、J Cの厳しさを教えていただき、新年懇親会のアトラクションに取り組むことでは、新会員同士の絆を育むことができました。つやま魂和っしょいプロジェクトでは橋本キャプテンのもと、和っしょい！津山やごんご踊りを普及させることができ、少しでもつやまのためになれたのかなと思えました。そして、配属いただきましたつやま活性化委員会では、事業を通じ、子どもたちに触れ合えたことやつやまの良いところをより深く知れたことが良かったです。なにより、須江委員長を始め、委員会メンバーの皆様本当に良くしていただき、わからないことだらけでしたが、色々教えていただき本当に感謝しています。この1年の経験を活かし、次年度も頑張りたいと思います。ありがとうございます。

つやま魂育成委員会  
井口 敏満

1年を振り返ってみて、初めはとんでもない組織に入ってしまったという気持ちでした。迎春の会のアトラクション練習では失敗の連続、完成度の指摘を受け妥協を許されない状況に追い込まれましたが同期メンバーと助け合い達成できたのは今ではとても良い思い出です。ごんご祭りではPRメンバーとして参加させて頂きチーフを中心に会議を重ね例年以上のPRが行えたと思います。その中で役割を与えて頂き感謝しています。配属の委員会では子ども達をキャンプに連れて行きサポーターとして参加し子ども達に自立心、利他の心を養ってもらい感謝を口に出して「ありがとう」と言えるように心がけました。初めは不安そうな子ども達も時間の経過とともに自然と笑顔も見えるようになり徐々に「ありがとう」が言えるようになっていく様子を間近で見守れたのは良い経験となりました。この一年で多くの人に出会い、色々な事を学べたことを今後の財産としていきたいと想います。

つやま魂育成委員会  
西村 明秀

昨年の12月の顔合わせ会から1年が過ぎました。まず、この一年切磋琢磨してきた同期に感謝の意を伝えたいと思います。新年懇親会のアトラクション練習から始まり、様々な事業で辛い時や楽しい時を分かち合えた同期の存在は、いつも私の支えでありました。彼らは私にとって掛け替えのない仲間であり、財産です。これからも仲間とともに事業を盛りたてていきたいと思います。そして何より、色々な局面で教指導いて下さった先輩方にも心より御礼申し上げます。歴史と伝統のある津山青年会議所の一員となり事業に参加することは、新会員の私にとって常に大きなプレッシャーとの戦いでした。しかし、現在の私がこうしてあるのも、先輩方の温かい叱咤激励があったからこそだと確信しております。来年は先輩方と同期への恩返しという意味も込めて、この津山青年会議所で、私自身何が出来るかを考え、行動に移せるよう努めて参りたいと思います。

指導力入魂委員会  
松永 大輝

今年一年を、振り返りましてJAYCEEとは、何かが分からないまま色々な事業に参加させていただいて楽しくそして厳しくLOMメンバーでたくさんの事業を行っていて、その事業には委員長の想いとLOMメンバーの想いが一体となって行われていると思えました。私が今年度指導力入魂委員会で行った事業の大和魂育成プログラムでは多くのLOMメンバーが参加いただき委員会メンバーとしてたくさんの気づきをいただけて本当にいい事業だったと思えます。今年を、しっかりと振り返って次年度に生かせるようにこれからも邁進していきたいと思しますのでよろしくお願い致します。今年、1年間知り合うことの出来なかったLOMメンバーとの出会いをこれからも大切にそして自分自身ももっと成長できるようにそして津山青年会議所に力になれるような人間力を付けて行きたいと思えます。ありがとうございます。

会員広報委員会  
村上 卓也

私が(一社)津山青年会議所に入会して一年が経とうとしております。この一年間はとても速く感じるとともに、毎日が様々な新しい経験の連続でした。青年会議所に入会して何もわからない状態からのスタートでしたが京都會議に始まり津山納涼ごんごまつりなどを通し、青年会議所のスケール大きさや地域との深いつながりを多く感じる事が出来ました。また、会議所メンバーや事業を通じて知り合った多くの方と交流を持つことが出来たのは私にとって大きな財産となりました。今年度、新会員として全ての事業に出てやろうとの意気込みでしたが仕事の都合などでなかなか出られない事も多かったのが残念です。

次年度以降も先ずは多くの事業に参加し、気付きを得ていく中から自分自身に更なる変革を起こしていきたいと思えます。皆様におかれましては今後もご指導の程よろしくお願い致します。

渉外交流委員会  
流郷 知寛

J Cに入会してからのこの一年を振り返ってみますと、本当に多くの人との出会い、気づきをいただいたと感じています。J C活動に参加していく中で、意義・目的を考えながら行動していく事を学び、あらゆる場面に対して、想いをもって行動できるようになったと感じています。また、志を同じくするメンバーに出会い、共に活動できる事が自身の勇気づけとなっています。一般社団法人津山青年会議所に入会させていただいたこと、そしてメンバーや特別会員の方々に出逢えたことを心より感謝しております。私は、まだまだ未熟で成長しないといけない面も多く、不安もありますが、今はそれよりも希望を抱くほうが強くあります。今まで、あるようでなかった気概を強くもてるようになり、今後の人生において大きく成長していくと確信できるからです。今後もJ C活動ができることへの感謝を忘れず、また多くの支えに感謝し、J C活動、運動に研鑽していきます。

# 卒業生挨拶

## 村上雅人

2001年に入会以来、多くのご縁をいただき、何とか卒業の年まで辿りつくことが出来ました。入会当時は、自分が卒業年度まで在籍している姿は想像できませんでしたし当時のメンバーも卒業まで私が持ちこたえると思われた方は少なかったのではないのでしょうか。マイペースで、いい加減な性格なので色々な方にご迷惑をおかけしてきました。その都度、先輩方やメンバーに叱咤激励していただき、社会人として入会当時より少しは成長出来たと自分自身勝手に思っております。今後は私自身OBとしてこれまでの経験を活かし、現役メンバーのサポートができればと思っております。また、残られる現役メンバーの皆さんにお伝えしたいのはJCで何をやったかより、「今」何をやっているかということです。そして、JCでの経験を人生にどう活かすか、JCで学んだことをいかに継続しているかという事を常に考えて行動していただきたいと思います。最後になりましたが、今後も津山JCの益々のご活躍を祈念いたしまして卒業予定者メッセージとさせていただきます。皆様ありがとうございました。

## 寺本健志

本年度、卒業するに当たり、現役メンバーのみなさんには、数々の場面で本当にお世話になりました。私が、この卒業まで至る8年の中で一度だけ理事を受ける事が出来て良かったと思っております。受けた事により少しの成長と気づきを得たからです。もっと「はい喜んで」の精神で理事を受けれるチャンスがあった事を後悔します。皆さんも、大変ですがチャンスを逃さないようにしてください。

## 山本真也

今までお世話になった、多くの先輩方、そしてメンバーの皆様へ心から感謝いたします。かけがえのない時を皆様と過ごせたことは、私の財産です。青年会議所での経験、出会いを大切にしてください。8年間本当にお世話になりました。末筆ながら、皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

## 仲西祐一

私はJCと出会うことで、素晴らしい仲間に出会い色々な経験をさせていただきました。それは年数を重ねるごとに大きくなっていきます。先輩方から受け継いできた事を次の世代に伝えることの大切さその大切さが今なら理解できるのです。現役の皆さん今は理解出来なくても信じて精一杯、目の前の壁にぶつかって乗り越えてください。必ず結果はついてきます。今後の皆さんの素晴らしい成長を期待しています。六年間本当にお世話になりました。

## 山形三平

私は、2012年度に入会し、2014年度の卒業で本当に短いJCライフでしたが、この3年間の間に色々な事を経験し、色々な事を学びました。また、本年度理事を経験したことで、JCがどういうものか少し解ったような気がします。本当に皆、つやまに対してのひとづくり、まちづくりの事に対して真剣に考えていると強く感じることが出来ました。これからのJCを担っていくメンバーにはこうした事を感じて、これからのつやまをもっと盛り上げてもらいたいと思います。3年間という僅かの間でしたが、皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

## 編集 後記

2014年度最後の対内誌「あした」となりました。この1年間、LOMの情報共有が出来るよう一生懸命取材をさせていただきました。いろいろと不備もあったかもしれませんが委員会メンバーと一年間共に歩めたことに感謝いたします。一年間、激励や取材へのご協力本当にありがとうございました。

● 津山JCニュース「あした」 平成26年12月19日 ●

発行責任者/(一社)津山青年会議所 会員広報委員会 委員長 中川洋平  
津山市山下30-9 電話(0868)22-6713 E-mail info@tsuyamajc.or.jp